

American Society for Radiation Oncology (ASTRO) 68th Annual Meeting において「Outcomes of Carbon-Ion Radiotherapy for Very High-Risk Prostate Cancer in a Contemporary Consecutive Cohort」のタイトルで ePoster での発表を行いました。

2026 年 9 月 26 日から 30 日まで、米国ボストンで開催された American Society for Radiation Oncology (ASTRO) Annual Meeting 2026 に参加しました。

ASTRO は米国放射線腫瘍学会が主催する、世界最大規模の放射線腫瘍学の学術集会です。世界各国から放射線治療に携わる医師、医学物理士、研究者などが集まり、放射線治療に関する最新の研究成果について活発な発表・議論が行われます。

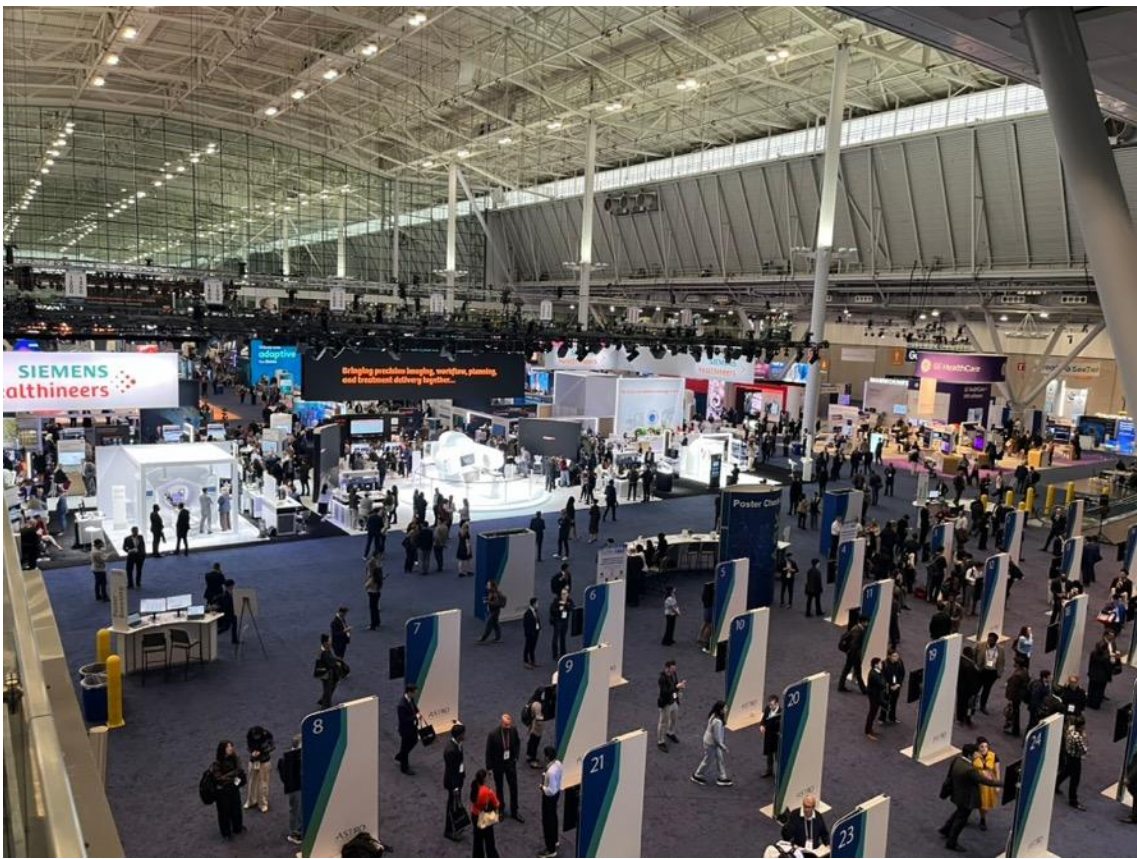
私にとって ASTRO への現地参加は、2012 年以来 14 年ぶりでした。2020 年にも参加を予定していましたが、コロナ禍によりオンライン開催となったため、奇しくも前回と同じボストンで、14 年ぶりに現地参加することとなりました。2012 年当時は日本からも多くの参加者がありましたが、今回は日本からの参加者は 60 人ほどと伺い、以前と比べて少なくなっていることに少し寂しさを感じるとともに、改めて日本から国際学会へ研究成果を発信していくことの大切さを感じました。

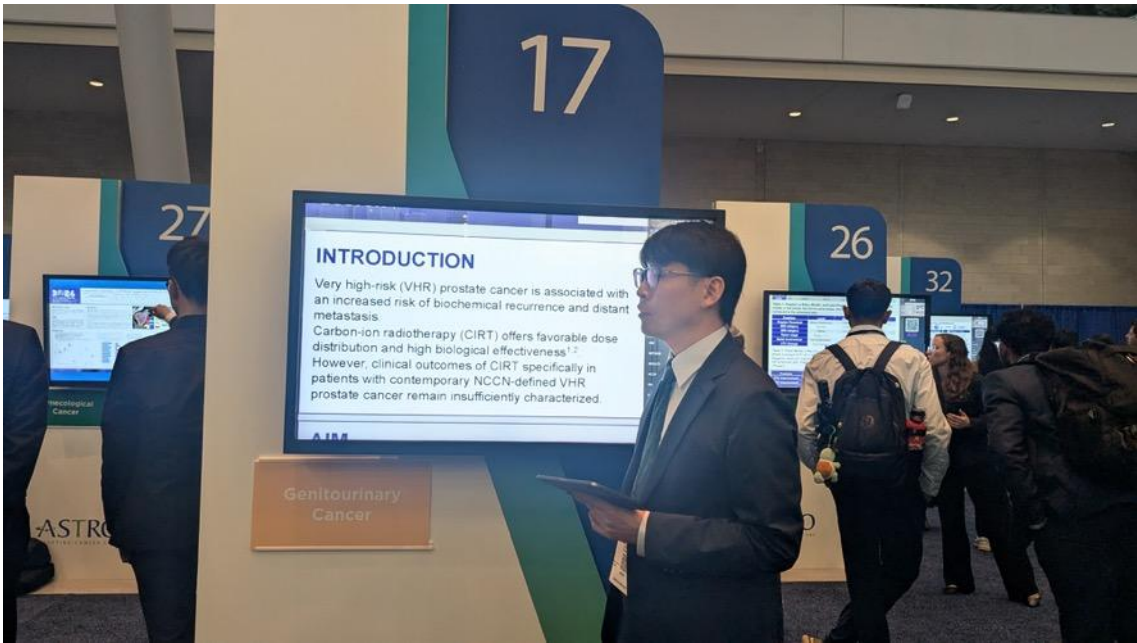
今回は、「Outcomes of Carbon-Ion Radiotherapy for Very High-Risk Prostate Cancer in a Contemporary Consecutive Cohort」のタイトルで、当院における超高リスク前立腺癌に対する重粒子線治療の成績について ePoster での発表を行いました。Poster Viewing Q&A では、電子ポスターをモニターに表示し、5 分間の発表に続いて 2 分間の質疑応答が行われます。私の発表でも海外の先生から質問をいただき、当院で取り組んでいる重粒子線治療について直接議論する貴重な機会となりました。

ASTRO 全体では重粒子線治療に関する発表はまだ限られていましたが、米国初となる重粒子線治療施設の開設を見据えた発表もみられ、米国における重粒子線治療への関心の高まりを感じました。

14 年ぶりに ASTRO に現地参加し、国際学会で自分達の診療・研究成果を発信するとともに、海外の研究者と直接意見を交わすことの大切さを改めて感じました。次回はぜひ若手の先生と一緒に参加し、世界の放射線腫瘍学に直接触れる機会を共有したいと思います。これからも山形大学から国内外へ研究成果を発信できるよう、臨床・研究に取り組んでいきたいと思っています。







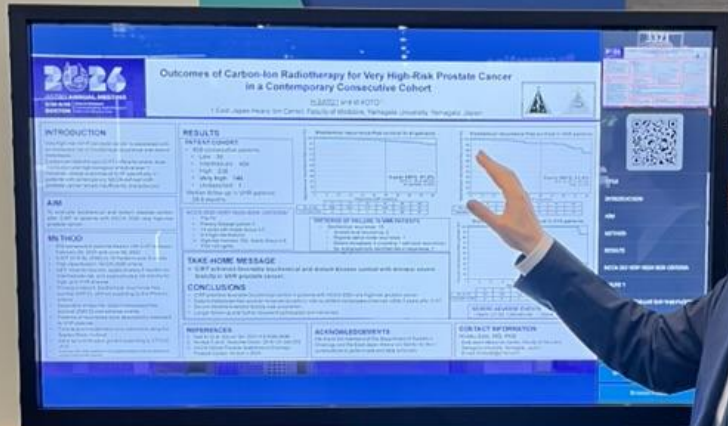
INTRODUCTION

Very high-risk (VHR) prostate cancer is associated with an increased risk of biochemical recurrence and distant metastasis.
Carbon-ion radiotherapy (CIRT) offers favorable dose distribution and high biological effectiveness^{1,2}.
However, clinical outcomes of CIRT specifically in patients with contemporary NCCN-defined VHR prostate cancer remain insufficiently characterized.

Genitourinary
Cancer

ASTRO

17



Genitourinary
Cancer

ASTRO
TARGETING CANCER CARE

26

